

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

コロッセオとリアルト橋について

博士前期課程

芸術研究科 造形表現専攻 美術領域

安藤智晴

主査 古本元治
副査 塚本洋守
渡邊雄二

研究背景

大学四年次の時、学外演習でイタリアを訪れた思い出とコロナの終息・復興を祈り、制作をしました。

イタリアに行った中で印象に残った風景は、コロッセオとヴェネチアのリアルト橋から見た街の風景です。

敢えて人を描かず自分が思った色を捉えて描いた風景画です。

研究目的

コロッセオは、建物の立体感を出す為、壁面の明暗の調整、壁面の穴の奥行きの色や楕円形の並行線に沿って制作しました。

ヴェネチアのリアルト橋は、リアルト橋から見た街の並びは手前は筆で描き、奥は指で描きました。

さらに運河を描くとき、刷毛を使って描写しました。

研究概要1



研究概要2



成果・まとめ

修了制作を描くとき、街の風景や建物の色の表現をどう生かすか悩みました。

しかし、作品を描いていくうちに、自分の思った色を表現することができました。

自分なりに納得した作品になったのではないかと思います。

前期・後期の授業のご指導を頂きありがとうございました。

指導教員コメント

イタリア旅行で訪れた世界有数の観光名所であるローマのコロッセオとヴェネツィアのリアルト橋の記憶と新型コロナウイルス感染拡大防止によって変貌した無人の風景をテーマに制作に取り組み社会問題として取り上げたことは評価できる。

フォービズムによるピュアな表現により作者の心情をより強調している。今後は公募展などを中心に大作に取り組み発表活動を継続する計画であり期待したい。

古本元治